

MKF river

ニュース

2010年9月16日

国土交通省

宮崎河川国道事務所

本庄出張所発行

第24号

今回掲載した下の地図は、本庄出張所管内の洪水時要注意箇所地図です。大雨、台風などのとき、本庄出張所では、この地図をもとに、見回りを行うことになります。

本庄出張所管内 洪水時チェックポイント



ここにあげられている「要注意箇所」は、これから崩れなどが進めば、堤防が致命的な損傷を受けるなどで、災害の危険も出てくる場所です。

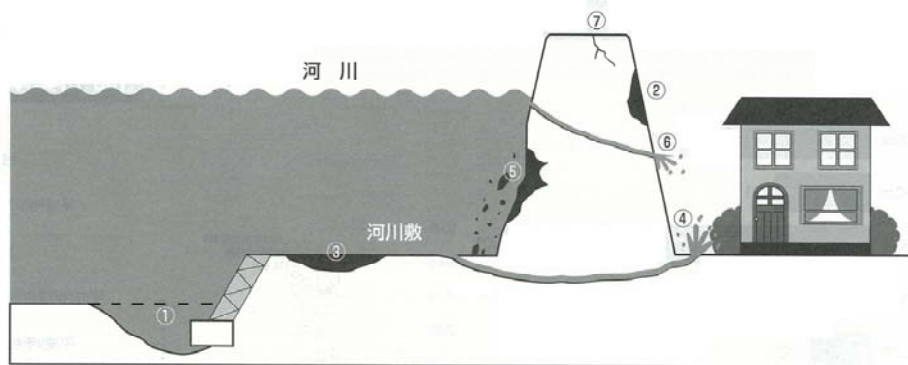
そのため、大雨などのときに崩れが進んでいないか、特に注意して巡視しているところです。

また、これ以外の場所でも、急に危険な状態になることもありますし、新しく注意して見ていかなければならないところが出てくることもありますので、注意しながら巡視しています。

洪水時の要注意箇所って、どんなところ？

おもてに載っている洪水時の要注意箇所の地図。洪水時の巡視で特に注意しているところだというのはわかりますが、なぜ、この場所を注意しているのでしょうか。

堤防は、基本的に土でできているため、雨や川の流れによって、堤防が傷んでしまうことがあります。そのままほうっておくと、最悪、堤防が壊れて大きな被害になってしまうため、傷んだところを注意していて、致命傷になる前に補修するのです。



この絵は、おもな堤防損傷をあらわした図です。
簡単に説明すると、次のようになります。

① 護岸の前の深掘れ（護岸洗掘）

ブロック積みの中から下にある土が流れ出した状態。放っておくと上に載っているブロックが崩れ落ちるかもしれません。

② 堤防斜面の崩れ（法面崩落）

雨などにより、堤防斜面の土が崩れたものです。

③ 河川敷に穴や深掘れ

場合によっては堤防損傷につながることもあります。

④ 堤防内での湧き水（噴出）（基盤漏水）

堤防から離れたところで川の水がわき出します。堤防の下に水が通る道があり、大きくなると空洞化→崩れと進む恐れも。

⑤ 堤防、河岸の流出（河岸洗掘）

堤防が川の水に削られています。

⑥ 堤防からの水漏れ（漏水）

堤防の中に水が通る穴があります。水が流れることで穴はどんどん大きくなっていきます。

⑦ 堤防の亀裂

堤防にひびが入っていると、そこから水が染みこんだり、崩れたりする原因になります。

河川に関する問い合わせ先

国土交通省 宮崎河川国道事務所 本庄出張所

〒880-1101 宮崎県東諸県郡国富町大字本庄5056-7

電話 0985-75-2179(土日・祝祭日及び夜間は宮崎河川国道事務所に転送されます)

宮崎河川国道事務所ホームページ <http://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/>

これらの異常が進むと、堤防が壊れてしまうこともあります。大雨のあとに、これまでなかったところに上のような異常を見つけたら、すぐに本庄出張所までお知らせください。